

共通診察券を活用した情報連携活用基盤構築の 実証実験に関する請負

成果報告書(概要版)

平成24年12月

しまね健康情報活用推進コンソーシアム



目次

1. 事業概要	1
2. 平成24年度事業の主な検討結果・成果等	3
3. サービスの概要	4
4. 情報連携活用基盤	5
5. 共通診察券	8
6. 事業の運用	9
7. 1 診療情報の広域連携に関する検証	10
7. 2 医薬連携に関する検証	11
7. 3 効果と課題～医療機関	12
7. 4 効果と課題～薬局	13
7. 5 効果と課題～住民	14
8. 1 「地域医療再生事業」での展開へ向けて	15
8. 2 今後の展開に関する検討事項	21
9. 定量的指標の対昨年度比較	22



1. 事業概要

平成23年度から、個人の健康情報（**健診情報**、**診療情報**、**調剤情報**など）を関係者間で登録・共有するとともに住民が**診療予約**を行い、出雲医療圏および大田医療圏全体で、共通診察券（仮称）を通じた、**ワストップの医療情報サービス**の実証に取り組みました。



医療機関での利用

検査結果等の参照画面

検査項目	検査結果	正常値	単位	検査機関	検査日時
AST	17	8	U/L	2007年11月10日	2007年11月10日
ALT	16	30	U/L	2007年11月10日	2007年11月10日
ALP	274	350	U/L	2007年11月10日	2007年11月10日
γ-GTP	27	30	U/L	2007年11月10日	2007年11月10日
LDH	217	350	U/L	2007年11月10日	2007年11月10日
CRP	0.76	0.45	mg/dL	2007年11月10日	2007年11月10日
ESR	4.0	4.0	mm/10	2007年11月10日	2007年11月10日
血糖	89.9	70	mg/dL	2007年11月10日	2007年11月10日
HbA1c	5.6	5.6	%	2007年11月10日	2007年11月10日
Hb	132.6	130.0	g/L	2007年11月10日	2007年11月10日
Hct	38.6	38.4	%	2007年11月10日	2007年11月10日
MCV	100.0	99.0	fL	2007年11月10日	2007年11月10日
MCH	34.6	33.0	pg	2007年11月10日	2007年11月10日
MCHC	33.3	33.0	g/dL	2007年11月10日	2007年11月10日
RDW	13.1	13.0	%	2007年11月10日	2007年11月10日
血小板	1.0	0.8	10 ⁴ /μL	2007年11月10日	2007年11月10日
白血球	7.0	4.0	10 ³ /μL	2007年11月10日	2007年11月10日

検査結果等の参照画面



自宅(患者)での利用

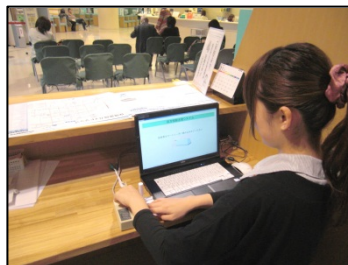
診療予約の画面

やまうち内科

2012年01月27日

診療科名	医師名	時間	予約状況						
内科			01/27	01/28	01/29	01/30	01/31	02/01	02/03
		11:30~11:35	*	*	*	*	*	*	*
		11:36~11:41	*	*	*	*	*	*	*
		11:42~11:44	*	*	*	*	*	*	*
		11:45~11:47	*	*	*	*	*	*	*
		11:48~11:50	*	*	*	*	*	*	*
		11:51~11:53	*	*	*	*	*	*	*
		11:54~11:56	*	*	*	*	*	*	*

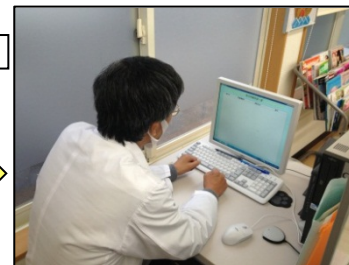
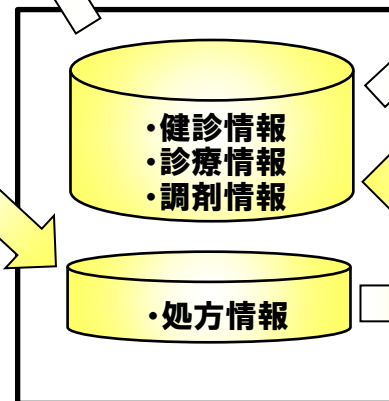
診療予約の画面



FAXコーナーでの事前送信



医療機関での受付



薬局での利用

処方箋の画面

処方箋

期 間：2011年11月21日～2012年02月21日

患 者 姓 名：ふくのクリニック

請求したい科目を選択して下さい。

処方日	処方内容	単位	内訳	数量	単位
2012/02/13	アロケルミン錠100mg	錠	1錠	1	1錠
2012/01/20	トロンボリック錠90mg	錠	3錠	3	3錠
	1日3回 食後				

処方情報の画面



1. 事業概要(実施体制図)

参加団体種別	参加団体名	情報開示 施設数
病院 (3施設)	島根県立中央病院、島根大学医学部附属病院、大田市立病院	2
診療所 (13施設)	知井宮堀江医院、児玉医院、すぎうら医院、遠藤クリニック、角医院、ふじのクリニック、小野医院、うめがえ内科クリニック、やまうち内科、須田医院、わだ耳鼻咽喉科医院、太田医院、神西児玉医院	12
薬局 (25施設)	しまね薬局大田店、あんず薬局、出雲薬局、いちご調剤薬局北本町支店、きらら薬局、サン・メディカル薬局塩冶店、すずらん薬局、知井宮ふれあい薬局、調剤薬局くすりのファミリア、つくし薬局、つくし薬局小山店、なかの薬局、服部薬局出雲支店、ファーマシィくにびき薬局、ファーマシィすこやか薬局、ファーマシィひかわ薬局、ファーマシィまごころ薬局、フラワー薬局、フラワー薬局平田店、平安堂薬局渡橋店、まきの薬局、みどり薬局、もも薬局、やまだ薬局、おおつ薬局	7
自治体	出雲市、大田市	-

- 協力機関・団体 : 一般社団法人出雲医師会、社団法人大田市医師会、社団法人島根県薬剤師会（出雲・簸川支部）、社団法人島根県薬剤師会（大田支部）、富士通株式会社、株式会社テクノプロジェクト



2. 平成24年度事業の主な検討結果・成果等

平成23年度事業では、出雲医療圏（出雲市）及び大田医療圏（大田市）において、地域内の医療機関、薬局、住民が情報連携活用基盤の実証に参加し、**診療予約、診療情報閲覧、健診情報閲覧、処方情報の電子化（診療所）、調剤情報閲覧**に係る実証を行いました。

平成24年度事業では、前年度事業に加えて、比較的評価が高かった診療情報照会サービスの拡充として**大田市立病院電子カルテ情報提供を実装し、2次医療圏をまたぐ診療情報の活用に関する検証、及び活発に利用されていた処方情報電子化の拡充として、病院における処方情報の電子化を実装し、中核病院の処方せんFAXコーナーにおける検証**に新たに取り組みました。

検証事項（サービス）		平成23年度実施	平成24年度実施
1	診療予約	共通診察券を活用した医療・健康関連アプリケーションに関する検証	⇒ 継続運用
2	診療情報閲覧	医療機関が保持している情報と情報連携活用基盤との情報連携に関する検証	⇒ 継続運用
3	健診情報閲覧	同上	⇒ 継続運用
4	処方情報の電子化（診療所）	処方・調剤情報に関する検証 処方情報の電子化に関する検証	⇒ 継続運用
5	調剤情報閲覧	処方・調剤情報に関する検証	⇒ 継続運用
6	大田市立病院電子カルテ情報提供	-	2次医療圏をまたぐ診療情報の活用に関する検証
7	処方情報の電子化（病院）	-	中核病院の処方せんFAXコーナーにおける処方情報の電子化に関する検証



3. サービスの概要

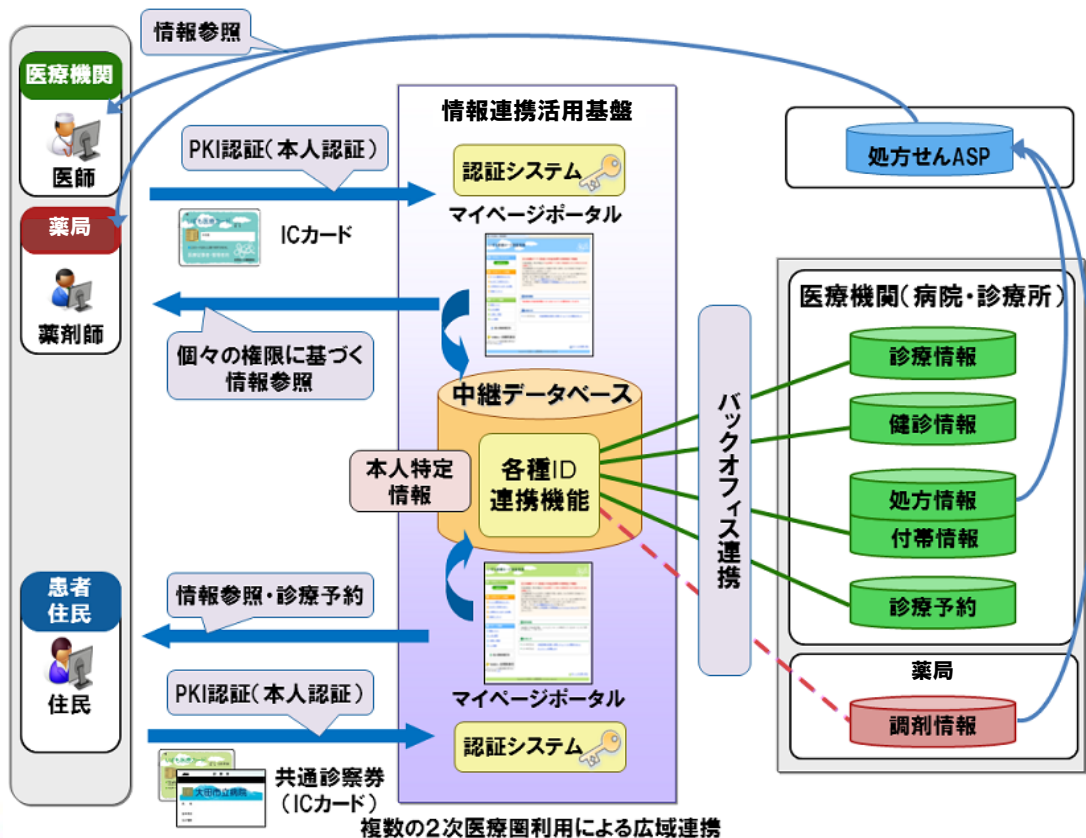
サービス名	概要	実証実験参加機関数	開示機関数	実証期間
①診療予約サービス	・患者が自宅より直接医療機関への診療の予約を行えるサービスの提供を行います。	【診療所】 出雲医療圏：1 大田医療圏：1 ※実証実験参加診療所のうち、外来予約運用を行っている診療所	【診療所】 出雲医療圏：1 大田医療圏：1 ※実証実験参加診療所のうち、外来予約運用を行っている診療所	平成24年7月 ～ 平成24年12月
②診療情報閲覧サービス	・診療情報のうち、主に検体検査結果情報および処方歴情報を公開対象として診療情報閲覧サービスの提供を行います。	【中核病院】 出雲医療圏：2 大田医療圏：1 【診療所】 出雲医療圏：8 大田医療圏：5 【薬局】(付帯情報) 出雲医療圏：24 大田医療圏：1	【中核病院】 出雲医療圏：1 大田医療圏：1 【診療所】 出雲医療圏：8 大田医療圏：1	平成24年7月 ～ 平成24年12月 ただし、大田市立病院の情報開示は平成24年10月～平成24年12月
③健診情報閲覧サービス	・健診ネット(医療ネットしまね)に参加している医療機関によって登録された健診情報を公開対象として、健診情報閲覧サービスの提供を行います。	【中核病院】 出雲医療圏：2 大田医療圏：1 【診療所】 出雲医療圏：8 大田医療圏：5	【診療所】 出雲医療圏：7 大田医療圏：2	平成24年7月 ～ 平成24年12月
④処方情報電子化サービス	・医療機関にて処方された処方指示情報をデータベースに登録し、薬局の調剤レセコンからの要求に応じて処方指示情報をレセコンへ取り込みます。 ・調剤レセコンにて登録された調剤実施情報をデータベースに登録します。	【中核病院】 出雲医療圏：1 【診療所】 出雲医療圏：8 大田医療圏：2 【薬局】 出雲医療圏：24 大田医療圏：1	【中核病院】 出雲医療圏：1 【診療所】 出雲医療圏：8 大田医療圏：2 【薬局】 出雲医療圏：7 (調剤情報のASPサーバへの戻し)	平成24年7月 ～ 平成24年12月
⑤調剤情報閲覧サービス	・医療機関および患者自宅からの情報照会要求に応じて、データベースに登録された調剤実施情報の画面表示を行います。	【中核病院】 出雲医療圏：1 【診療所】 出雲医療圏：8 大田医療圏：2 【薬局】 出雲医療圏：7	【中核病院】 出雲医療圏：1 【薬局】 出雲医療圏：7	ただし、島根県立中央病院の参加は平成24年10月～平成24年12月



4. 情報連携活用基盤

出雲医療圏及び大田医療圏において、中継データベースを基本とした認証システムやマイページポータルを提供する情報連携活用基盤を利用し、医療機関・薬局・住民が実証実験を行いました。

本実証実験では、平成23年度の健康情報活用基盤実証実験の主なサービスを継続するとともに、診療情報を提供する医療機関として、大田医療圏の中核病院である大田市立病院を新たに加えた環境を構築しました。また、島根県立中央病院にて処方情報の電子化機能を利用する環境を構築し、二次医療圏をまたがる広域での医薬連携を検証しました。





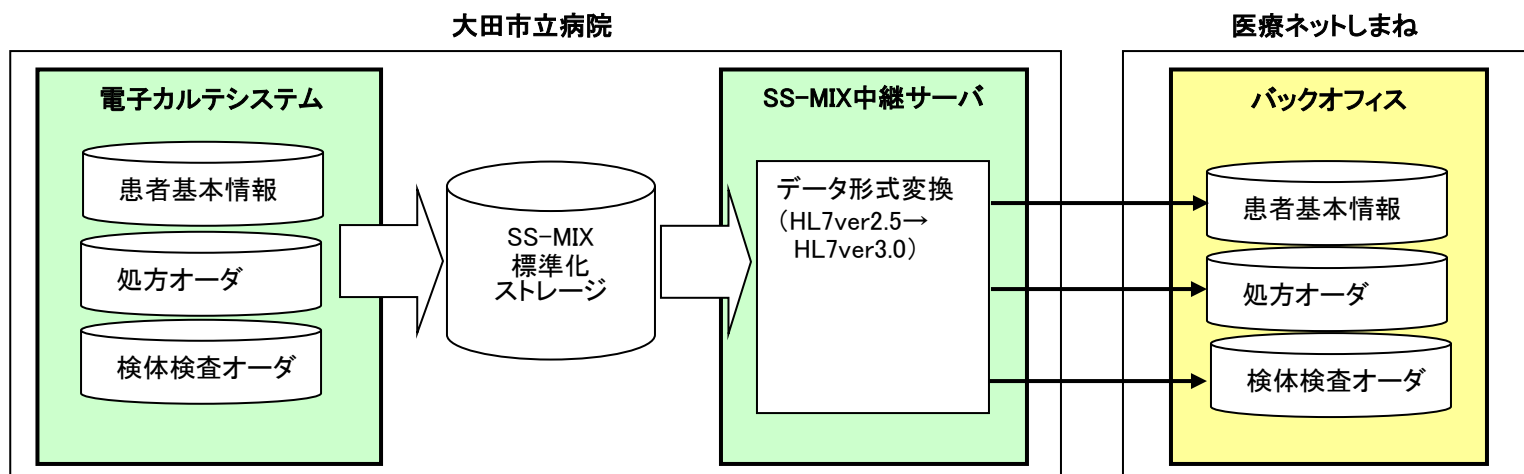
4. 情報連携活用基盤

①大田市立病院システム構築

二次医療圏をまたがった中核的医療機関の間での情報連携を検証するため、本実証実験では大田医療圏における中核的医療機関である大田市立病院から出力される診療情報を、情報連携活用基盤を介して閲覧可能とするよう拡張を加えました。

大田市立病院にて稼動している電子カルテシステムから診療情報の出力を可能としました。診療情報はHL7ver2.5形式にて出力され、院内設置のSS-MIX標準化ストレージに格納されます。

SS-MIX標準化ストレージに格納された診療情報は、SS-MIX中継サーバ機能により情報連携活用基盤のバックオフィスに転送されます。



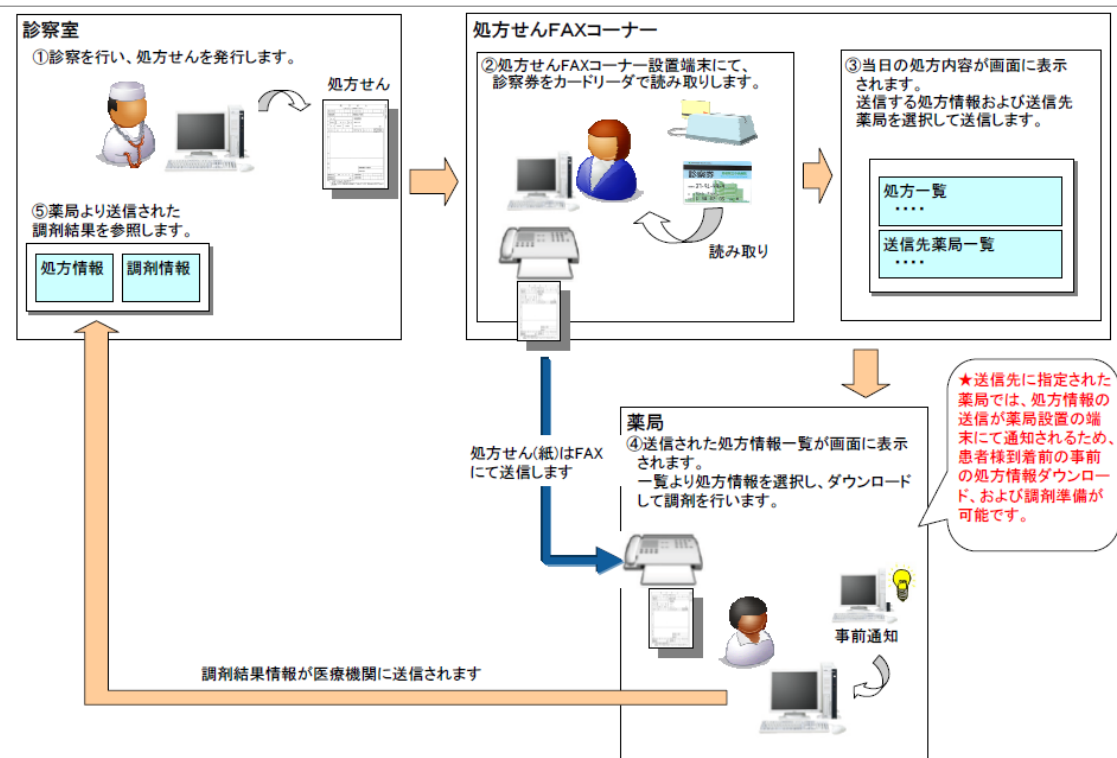
4. 情報連携活用基盤

② 島根県立中央病院システム構築

本実証実験では出雲医療圏における中核的医療機関である島根県立中央病院から出力される処方情報と患者付帯情報、および薬局から出力される調剤結果情報を、情報連携活用基盤を介して閲覧可能とするよう拡張を加えました。




また、本実証実験では薬局における調剤準備行為としての事前調剤を補完するため、患者来店前の処方情報の事前通知機能も実装し、通常FAX送信とあわせて運用しました。

処方せんFAXコーナーによる処方せん電子化の運用





5. 共通診察券

種 別		カード交付数		備考		
		予定	実績			
住民用カード		ICチップ付 大田市立病 院診察券	500枚	500枚		
		いずも医療 カード	社保カード事業に て交付したもの	1,288枚		社保カード事業で 交付した2,016枚 のうち職域交付分
昨年度実証実験に て交付したもの			371枚			
本実証実験におい て交付したもの			数十枚	143枚		
医療従事者・ 管理者用カー ド		いずも医療 カード	社保カード事業に て交付したもの	193枚		
			昨年度実証実験に て交付したもの	45枚		
			本実証実験におい て交付したもの	数十枚	9枚	
合計			2,000 枚程度	2,397 枚		



6. 事業の運用

	主な運用項目	運用内容
利用者募集	リーフレットの配布、実証モニターの募集	リーフレットを作成し、医療機関、薬局などに配布し、来院する患者様を対象に実証モニターを募集しました。
利用者登録	窓口受付	来院する患者様や協力企業などの利用希望者が記入した参加同意書、参加申込書を受付けました。
	登録	受付けた参加同意書、参加申込書の内容をシステムに登録しました。
	ICカードの発行	新規の利用者には、暗証番号をICカードに登録し、利用者に郵送しました。
指導・助言/問い合わせ対応	ホームページを通じての指導/助言	マイページポータルにて利用方法やトラブル時の対応などを掲載しました。また、運用時に必要な操作マニュアルなどが自由にダウンロードできるようにしました。
	各種問い合わせ対応	本実証実験について住民や利用者等からの電話での問い合わせに対応する必要があるため、専用のコールセンターを開設して受付を行いました。
システムの運用管理	メンテナンス、運用管理	システムはデータセンターにて運用保守を行いました。
運用ルール確立	利用者約款の制作	利用者のルールを定める約款を定めました。
	個人情報保護ルールの整備	個人情報保護についてのポリシーを定めました。
	情報セキュリティ管理の確立	JIS X 27001 (ISMS) に基づく情報セキュリティ管理が確立されたデータセンターで、システムの運用管理を行いました。
	配布様式の制作	参加申込書、参加同意書を、本実証実験の運用ルールに即して新たに制作しました。



7.1 診療情報の広域連携に関する検証



(1) 広域連携による検証

医療・健康情報を中核的医療機関・診療所・薬局・個人が閲覧する際に、二次医療圏を超えた場合であっても、適切な認証を行い、情報の真正性を確保した上で遅滞なく情報の閲覧を可能とする閲覧機能に関する仕様について検証を行いました。検証は、実証実験に係るシステムが準拠すべき関連ガイドラインとの適合性を確認することにより行いました。

(2) 検証を通じた評価

ICカードを用いる個人認証機能、及び診療情報の広域連携機能に関して、「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」（第4.1版）を基準とし、適合性を評価しました。

「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」において、医療機関が外部との情報交換を行う場合に個人情報保護及びネットワークのセキュリティに関して特に留意すべき事項として述べられている「6.11 外部との個人情報を含む医療情報を交換する場合の安全管理」、及び同章から引用されている「6.5 技術的安全対策」に関してチェックシート方式により適合性を評価しました。

評価の結果、「最低限のガイドライン」20項目のうち、適合が18件、非該当が2件で、不適合が0件でした。

また、サーバログ上でもコールセンターに寄せられる利用者からの問い合わせ等を通じて、処理の遅滞の発生等は認められず、ガイドラインとの適合性を確保した上での可用性実現が確認できました。

No.	ガイドライン該当項目	適否
1	6.5 C-1	○
2	6.5 C-2	-
3	6.5 C-3	○
4	6.5 C-4	○
5	6.5 C-5	○
6	6.5 C-6	○
7	6.5 C-7	○
8	6.5 C-8	○
9	6.5 C-9	○
10	6.5 C-10	○
11	6.5 C-11	○
12	6.11 C-1	○
13	6.11 C-2	○
14	6.11 C-3	○
15	6.11 C-4	○
16	6.11 C-5	○
17	6.11 C-6	○
18	6.11 C-7	-
19	6.11 C-8	○
20	6.11 C-9	○



7.2 医薬連携の広域連携に関する検証



(1) 島根県立中央病院の処方情報 事前送信サービスの検証

10月から島根県立中央病院が処方情報の電子化対応の医療機関として加わり実証実験を行ったため、利用が大幅に増加しました。（処方情報送信数でみると昨年度は125件）

(2) 検証を通じた評価

- ①昨年度の処方情報の電子化対応の医療機関は診療所のみでしたが、中核病院でも有用性と同様に有益な結果が得られました。
- ②事務の効率化の観点からは、医療機関と薬局でそれぞれ紙が出力されるため（2倍）、計1,706枚（1枚あたり20円として約3.4万円）のコスト削減効果があったと考えられます。
- ③患者様へのサービスの観点からは、薬局店頭での実測の結果、事前送信による患者様の薬局での待ち時間短縮が検証できました。また、二次医療圏をまたがった広域連携の方（表のA薬局）が、大幅な待ち時間削減が可能であることを実証できました。
- ④調剤情報を医療機関の電子カルテへ反映する仕組みについて実証出来ました。更に、他の医療機関から処方された調剤情報も薬歴として参照できるよう、地域医療再生事業で検討する見込みです。

医薬連携サービスの利用状況

	病院・診療所	実証期間中の電子送付件数
処方情報送信数	処方せんFAX送信（FAXコーナーなど）	774件
処方への還元情報伝達	還元情報FAX出力	79件

処方情報の事前送信による
患者様の調剤待ち時間短縮

	処方せん 持ち込み	電子送付あり
A薬局 データ件数	3件	2件
平均待ち時間	15.6分	0.8分
B薬局 データ件数	5件	4件
平均待ち時間	9.9分	4.4分

	事前送付なしの場合 に対する短縮率
A薬局	95%
B薬局	56%



7.3 効果と課題～医療機関



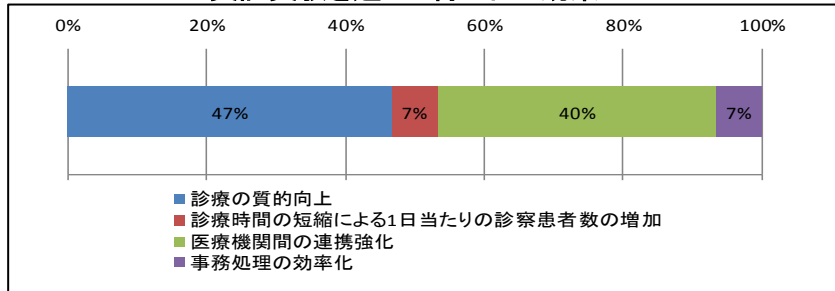
利用状況

サービス	利用状況	摘要
マイページポータルへのログイン	105 (回)	情報連携活用基盤の機能
・診療情報照会 ・調剤情報照会	400 (回)	
・健診記録照会	16 (回)	
・診療予約	9 (回)	
処方情報送信	774 (件)	電子カルテから処方情報ASPサーバへの送信

※集計期間は平成24年8月～平成24年12月

利用効果

実証実験を通じて得られた効果



重複検査回避への効果

患者数	a	22人
うち、EHRに血液検査のデータがあった患者数	b	20人
重複検査回避数	c	3人
重複検査回避率	$c \div b$	15%

主な課題と解決方策

(1) サービス認知と利用者拡大への取組

【課題】

当システムでは、PHRを含めたセキュリティを考慮していますが、診察室での患者様のICカードによる認証操作では、患者様の操作によるPIN入力を含めて、診療情報を参照するまで負担がかかることについて課題が上げられています。

【解決方策】

セキュリティを確保した上でICカード提示やPIN入力を要しない形で以下のような運用が考えられます。

- ①閉域網によるネットワークで、医療従事者のみの利用サービスとする
- ②情報閲覧側医療機関にて患者様から閲覧同意を予め取得し、都度の認証を不要とする
- ③更に電子カルテ改修により、カルテ画面上で同意患者の有無がわかる

(2) 対象機関・地域の拡大

【課題】

参加する患者様が少なかったとの意見が課題として上げられています。

【解決方策】

今後の地域医療再生事業では全県レベルでの利用となり、島根県が中心となり医療機関や医師会へ積極的に推進しています。また、県民向けにイベント開催やテレビCM、新聞等での広報など活発な広報が行われています。全県レベルで広く活用されることが期待されています。



7.4 効果と課題～薬局



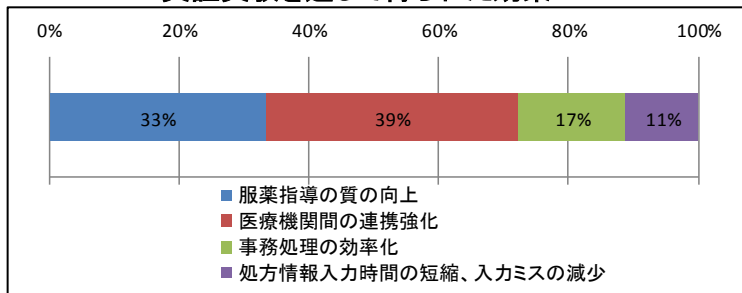
利用状況

サービス	利用状況	摘要
マイページポータルへのログイン	112 (回)	情報連携活用基盤の機能(付帯情報を閲覧する)
・診療情報照会 ・調剤情報照会	201 (回)	
処方情報の取り込み	774 (回)	処方情報ASPサーバから調剤レセコンへの取り込み
調剤情報の返信	79 (件)	処方情報ASPサーバへの調剤結果の返信

※集計期間は平成24年8月～平成24年12月

利用効果

実証実験を通じて得られた効果



主な課題と解決方策

(1) 対象調剤レセコンについて

【課題】

どの調剤レセコンメーカーの製品でも連携出来るようにして欲しいとのご意見がありました。

【解決方策】

本実証実験で用いたHL7CDAに対応した調剤レセコンメーカーは、少ない状況です。地域医療再生事業では、これを踏まえて多くの調剤レセコンメーカーが対応している、QRコード(入力する処方情報)やNSIPS(出力する調剤結果)を考慮して検討を進める予定です。これにより、多くの薬局が参加できることが期待できます。

(2) 処方情報入力について

【課題】

処方情報入力で加算や紐付など手直しが必要な場合があるとのご意見がありました。

【解決方策】

現状の調剤レセコンでは1 RP毎に加算挿入操作が必要だが、電子的な取り込みの場合、全RPが取り込まれた後に1 RP毎の加算挿入操作をしなければならず、この操作が面倒であると考えられます。調剤レセコン側での対応が望まれます。紐付については、将来的に電子的な取り込みを行う事になった場合には、初期段階で調剤レセコンの紐付を行う事により解決出来ると思います。



7.5 効果と課題～住民



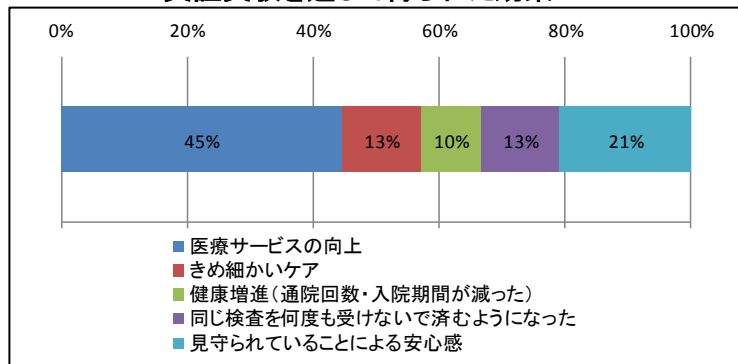
利用状況

サービス	利用状況	摘要
マイページポータルへのログイン	663 (回)	情報連携活用基盤の機能
・診療情報照会 ・調剤情報照会	2,804 (回)	
健診記録照会	411 (回)	
診療予約	374 (回)	

※集計期間は平成24年8月～平成24年12月
 ※集計期間中の利用者人数: のべ587名

利用効果

実証実験を通じて得られた効果



主な課題と解決方策

(1) サービスを受ける際の課題について

【課題】

対象機関・地域の拡大については、「基本的に全ての病院・診療所や薬局で実施してほしい」、「全国規模で利用したい」などの意見があり、サービスを充実するためには対象機関や地域の拡大の必要性を認識しました。

【解決方策】

島根県での地域医療再生事業では、今回の実証実験の成果を活かし、全県的なネットワークシステムが構築中で、利用者拡大が図られています。

(2) その他の課題について

【課題】

ICカードのあり方について、保険証との合体など必要なカードを少なくしたいことや安価の普及しやすいカードであるべきとの意見がありました。また、電子的なお薬手帳や生まれてからの病歴、医師とのコミュニケーションツールとしての利用を望む意見がありました。

【解決方策】

ICカードのあり方については、国や自治体等の今後の制度に依存しますが、保険証との一体化など、普及しやすく有効的な利用ができるよう期待します。



8.1 「地域医療再生事業」での展開へ向けて

島根県では、本実証実験の成果を活かし、地域医療再生事業にてしまね医療情報ネットワークを構築しています。

【システムの構成と経費負担】

システムは下図（左）で示すように、3階層で構成されています。各階層の経費負担を、下表（右）に示します。



階層	導入経費負担者	運用経費負担者
連携サービス	県	利用者
サービス基盤	県	県
ネットワーク基盤	県	県



8.1 「地域医療再生事業」での展開へ向けて

しまね医療情報ネットワークは、島根県の公募により「愛称：**まめネット**」と命名されています。

【今年度構築・稼働サービス】

①基盤サービス

まめネット上で、様々なサービスを実現するための基盤となる仕組みです。

- ・安全に情報をやり取りするためのネットワーク
- ・患者様の医療機関毎に異なるIDを関連付けて管理する機能
- ・参加医療機関の利用者情報を適正に管理するための機能
- ・参加医療機関の円滑な情報提供や連携を行うための基礎的な機能

などを基盤サービスとして提供されています。

②連携カルテサービス

複数の医療機関で診療情報を共有する仕組みです。本実証実験におけるマイページポータルや認証システム、中継データベースの考え方を元に、EHRとして構築されています。

③紹介状サービス

参加する医療機関同士で、紹介状のやりとりを出来る仕組みです。患者様が紹介先へ来院されるよりも先に紹介状の内容を送信することができます。

④予約（診療予約・検査予約）サービス

参加する医療機関同士で、予約を出来る仕組みです。紹介先医療機関に患者様が希望する予約日をスムーズに調整できます。検査の予約時に詳細な情報をやりとりすることで、安全で正確な検査を受けることができます。

島根県の新医療情報網
愛称は「まめネット」
浜田の小3生が命名

島根県が今年11月から医療機関を結んで診療情報を共有する医療情報網の愛称が「まめネット」に決まった。愛称を考えた浜田市立上府小3年片岡実咲さん(8)が1日、松江市殿町の県庁で溝口善兵衛知事に報告した。片岡さんは「みんなが元気になってほしい」と思い、付けた」と説明。溝口知事は「いい名前を付けてくれてありがとう」と感謝した。

まめネットは、深刻な医師不足が続く中、病院や診療所、薬局、保健所をネットワークで結び、患者情報を共有。遠隔地でもスムーズな医療サービスを提供するのが狙い。システムは、11月から紹介状の送信サービス、来年1月から遠隔地で画像診断する際の支援やカルテを共有する。事業費は13億円。運営するNPO法人しまね医療情報ネットワーク協会によると、7月末までに申し込んだのは119機関。2014年3月までに600機関を目指す。

2012年8月2日 山陰中央新報



8.1 「地域医療再生事業」での展開へ向けて

【今年度構築・稼働サービス】

⑤画像中継・診断サービス

患者様の検査画像などをスムーズにやりとりのための仕組みです。
CD-Rやフィルムを他の医療機関に持ち込む必要がなくなります。緊急搬送時、先方に事前に画像を送ること
で、患者様の現在の状況を把握出来ます。専門の医師がいない医療機関から遠くの専門病院へ画像を送って、
読影してもらう事が可能になります。

⑥地域連携パスサービス

参加機関間でのパスを共有する仕組みです。

⑦共有ファイルサービス

参加者間でファイルを共有する仕組みです。

⑧掲示板サービス

まめネット内で伝達事項等を共有する仕組みです。



8.1 「地域医療再生事業」での展開へ向けて

【来年度構築・稼働予定サービス】

① 医薬連携サービス

医薬連携サービスは医療機関と薬局で処方情報や調剤情報を連携するサービスであり、本実証実験における処方情報の電子化サービスおよび調剤情報閲覧サービスを元にこれから検討・構築される予定となります。

② 健診システムサービス

健診システムサービスは特定健診のためのサービスであり、当実証実験における健診情報閲覧サービスでは旧ネットワークである「医療ネットしまね」の参照元のシステムと同等機能を検討される予定です。

【地区別稼働状況】

① 出雲医療圏

・島根県立中央病院が、平成25年1月より本格稼働。順次周辺の医療機関も参加。

② 大田医療圏域

・大田市立病院が、平成25年7月より稼働見込み。



8.1 「地域医療再生事業」での展開へ向けて

【広報活動】

地域医療崩壊防止に向けたフォーラム

I Tを活用した医療連携で、医療崩壊を止めよう

2013.1.13 日 14:00~16:30
ビッグハート出雲 【出雲市駅南町1丁目5番地】(JR出雲市駅南口より徒歩1分)

入場無料

▶ 挨拶
島根県医師会会長 加藤 哲 夫
島根県知事 溝 口 善 兵 衛
島根大学学長 小 林 祥 泰


▶ 基調講演
座長：島根県病院事業管理者・参与 中川 正 久
「I Tを活用した地域医療再生への展望について」
講師：地域医療福祉情報連携協議会会長 田 中 博

▶ パネルディスカッション
テーマ
「島根県におけるI Tを活用した医療連携への期待」
座 長：島根県医師会常任理事 児 玉 和 夫
助言者：地域医療福祉情報連携協議会会長 田 中 博

▶ 発表
NPO法人まなび医療情報ネットワーク協会事業企画部長 石 飛 厚 志
(医) 医純会すぎうら医院副院長 杉 浦 弘 明
開立病院機構浜田医療センター院長 石 杉 黒 眞 吾
公立邑智病院院長 石 原 晋

▶ ディスカッション

問い合わせ先 島根県医師会【松江市袖師町1-31】
TEL.0852-21-3454 FAX.0852-26-5509
主催：島根県医師会 共催：島根県・島根大学



【駐車場のご案内】
●ビッグハート出雲は島根県南20世または市営駐車場(駅前・駅北・駅前)のいずれかを利用ください。
●駐車場も予約したく、前定時刻は無料となります。
【ご注意】
観覧席の「希望(口)出雲駐車場」は無料ではありません。また、本会場はビッグハート専用ではありません。右側には観覧席がありますので、ご希望の観覧席をお選びください。

2013年1月13日開催「地域医療崩壊防止に向けたフォーラム」ポスター

I T活用 の 連 携 有 効

地域医療崩壊防止へ討論

地域医療再生の手法を医療機関を越えて共演。まめネットのメリを有することで、効果的にサポートすることの重要性を説いた。重要さを説いた。パネリストは、患者の検査結果や治療歴などの診療情報

「地域医療の崩壊防止」をテーマに、県医師会と県、島根大が開催。県内の医療機関を結び、診療情報を共有する医療情報ネットワーク「まめネット」が本格稼働したことから、情報技術(I T)を活用した医療連携を主題とし、約160人が聴講した。

事例紹介では、出雲市内で個人病院の副院長を務める杉浦弘明氏が、診療所の立場で講

演。まめネットのメリットに関して「他の病院に患者を紹介した後にも治療経過を把握することができ、退院後の受け入れ体制がすぐに整えられる」とし、既に患者10人から、まめネットへの参加同意を得たと報告した。

また、医師不足が深刻な県西部の基幹病院、浜田医療センター(浜田市浅井町)の石

黒真高院長は、専門医と強調。「まめネットが院内から離れた場所には限られた医療資源にいる場合でも、同じ(マンパワー)を効率率データを基に治療計画的に活用するために立てることができる」と述べた。

会場からの質問を受けるパネリストら



2013年1月14日 山陰中央新報



8.2 今後の展開に関する検討事項

①住民マイページポータルサービス（本コンソーシアム会議での意見）

住民が自宅などのパソコンから診療情報や健診情報の参照、予約受付のサービスを実施していました。まめネットでのPHRは今後検討されますが、本実証実験でのコンソーシアム会議で検討し、以下のような意見がありました。

- 1)PHRについては、今後も非常に大きな可能性を秘めています。実証実験にとどまらず全国的に普及するためには、実現するための認証基盤（統一した患者IDや番号制度及びICカードの仕組み）が全国的に整備されることが、必要ではないでしょうか。
- 2)患者様に対して紙で渡していた情報をICカードに登録することで、患者様にとっては紛失する等がなくなり、補足情報（例えば検査項目の意味や領収書の項目の意味など）などもあれば利便性が向上することが考えられます。
- 3)患者様の家族状況や栄養状況、家の段差や入口・駐車場などの状況、看護・介護体制など、患者様、医療機関、介護施設などで情報共有することで効果的な患者サービスが可能になることが考えられます。
- 4)国の主導で全国的に普及したカード（例えば、自動車運転免許証や保険証（ICカード化された前提で））に相乗りした方が普及し易いと考えられます。
- 5)ICカードに付加価値が無ければ患者様は利用し難いし、患者様のカードが増えるだけです。保険情報や、他の医療機関の患者IDも一元管理されれば、医療機関に患者様がICカードのみ持参すれば良いようになれば、メリットも大きいと考えられます。

コンソーシアム会議では、PHRは今後しなければならぬ課題であるとの意見であり、上記のような課題が解決出来ればPHRは実現可能であると思われれます。



9. 定量的指標の対昨年度比較

(1) 実証実験への参加率（地域における普及状況）

分類	実証実験を通じた実績値		昨年度からの増加	全数 (H24年度)
	平成23年度	平成24年度		
医療機関	8% (13か所)	10% (16か所)	2% (3か所)	164か所
うち、病院	23% (3か所)	23% (3か所)	0% (増加なし)	13か所
うち、診療所	6% (10か所)	8% (13か所)	2% (3か所)	171か所
薬局	23% (20か所)	29% (25か所)	6% (5か所)	87か所



9. 定量的指標の対昨年度比較

(2) 情報連携・共有の件数（関係機関間の連携状況）

		実証実験を通じた実績値		昨年からの増加数	月平均の増加数
		平成23年度	平成24年度		
医療機関	マイページポータルへのログイン	76	105	29	10.7
	・ 診療情報照会 ・ 調剤情報照会	195	400	205	56.4
	・ 健診記録照会	38	16	-22	-2.8
	処方情報送信	125	774	649	484.8
薬局	マイページポータルへのログイン	285	112	-173	3.4
	・ 診療情報照会 ・ 調剤情報照会	394	201	-193	35.5
	処方情報の取り込み	201	774	573	465.8
	調剤情報の返信	23	79	56	46.9
住民	マイページポータルへのログイン	587	663	76	49.5
	・ 診療情報照会 ・ 調剤情報照会	2,504	2,804	300	205.8
	・ 健診記録照会	272	411	139	46.0